

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	陽光ホーム	評価対象年度	平成27年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人育桜福祉会 ・代表者名 生亀 洋子 ・住所 川崎市中原区西加瀬10番3号	評価者	障害計画課長
指定期間	平成26年4月1日～平成31年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害計画課

2. 事業実績

利用実績	共同生活援助（定員 16名）在籍者 15名（平成28年3月31日現在） 地域生活体験事業（定員 1日2名）延利用日数 87日																																								
収支実績	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">収入</th> <th colspan="2">支出</th> <th rowspan="2">収支差額</th> </tr> <tr> <td>経常活動</td> <td>65,569千円</td> <td>経常活動</td> <td>56,862千円</td> <td rowspan="8">7406千円</td> </tr> <tr> <td>給付費</td> <td>33,353千円</td> <td>人件費</td> <td>45,724千円</td> </tr> <tr> <td>川崎市単独扶助</td> <td>10,879千円</td> <td>事務費</td> <td>2540千円</td> </tr> <tr> <td>指定管理委託料</td> <td>11,737千円</td> <td>事業費</td> <td>8598千円</td> </tr> <tr> <td>拠点区分間繰入金</td> <td>0千円</td> <td>拠点区分間繰入金</td> <td>0千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>9600千円</td> <td>その他</td> <td>0千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>65,569千円</td> <td>施設整備等</td> <td>1300千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>合計</td> <td>58,162千円</td> </tr> </table> <p>※端数処理のため合計が一致しないことがあります。</p>	収入		支出		収支差額	経常活動	65,569千円	経常活動	56,862千円	7406千円	給付費	33,353千円	人件費	45,724千円	川崎市単独扶助	10,879千円	事務費	2540千円	指定管理委託料	11,737千円	事業費	8598千円	拠点区分間繰入金	0千円	拠点区分間繰入金	0千円	その他	9600千円	その他	0千円	合計	65,569千円	施設整備等	1300千円			合計	58,162千円		
収入		支出		収支差額																																					
経常活動	65,569千円	経常活動	56,862千円		7406千円																																				
給付費	33,353千円	人件費	45,724千円																																						
川崎市単独扶助	10,879千円	事務費	2540千円																																						
指定管理委託料	11,737千円	事業費	8598千円																																						
拠点区分間繰入金	0千円	拠点区分間繰入金	0千円																																						
その他	9600千円	その他	0千円																																						
合計	65,569千円	施設整備等	1300千円																																						
		合計	58,162千円																																						
サービス向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活能力は持っているが社会のルールに基づいた行動に課題がある利用者に対して、コミュニケーションを丁寧に行うことによって、希望をかなえるにはどうしたらいいかをともに考え、できることから利用者自身に取り組んでもらう支援を強化した。 2名の利用者が地域移行し他の利用者の意識も高まってきていることから、移行後のサポート体制強化等のため、障害者支援施設との一体的な運営がより強固なものになるよう検討している。 																																								

3. 評価（評価段階：5→1標準：3.加点点割合：5→100%、4→80%、3→60%、2→40%、1→0%）

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	4	8
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	4	8
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
(評価の理由) ・前年度より行っていた買物等をはじめとする支援を変更し、利用者自身が主体的に自分の生活を組立て自力で実行していくことを支援するように切り替えた。それにより、地域社会で暮らしていくためには何が必要かを利用者自身が徐々に意識するようになり、着実に効果を上げてきた。その結果、法人が設置する他のグループホームへ2名が移行した。					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	4	4
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
	適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			
(評価の理由) ・支出については、洗濯機や掃除機等の備品の的確な買い替えを行う中でも、適正な執行に努め、予算内で執行を行った。 ・収入については、債権管理を的確に行ったが、給付費の減により、収入全体では見込を下回った。しかしながら、収支はプラスであった。 ・法人内部の確認体制に加え、公認会計士による会計専門指導を実施し第三者によるチェック体制を整えているなど、適正な会計処理のための体制を整備している。					
サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
	利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	4	4
		利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
(評価の理由) ・利用者の現在の生活を本人の希望に添ってより豊かにしていくこと、さらに利用者の今後を見越した支援を行うことを柱として、本人とのコミュニケーションを基にアセスメントを行い、全職員が統一した支援を行った。 ・ケースカンファレンスは、相談支援センターや区保健福祉センターに加え通所先の事業所にも参加してもらい、定期的に必要なに応じて行っている。 ・利用者とのコミュニケーションにおいて、自ら要望を伝えることでかえって混乱を招く場合は「相談ノート」を書いてもらう等の工夫を行い、また、言葉の少ない利用者にはカード等の利用により意思確認を行っている。さらに、利用者の障害特性に合わせて情報提供方法を工夫し、情報が伝わったかを確認しながら自ら考えて次のステップへ進めるよう十分な時間を確保して支援している。					

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	3	3
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	4	4
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	3	3	
(評価の理由) ・管理者や支援員のみならず世話人の資質向上のため、法人主催の「世話人研修」「世話人会議」に出席しているほか、施設長やサービス管理責任者との対話を重視し、事業計画・個別支援計画の内容理解を図っている。 ・災害時の連携のため、井田地区の6施設と協定を締結し、緊急時の協力体制や必要備品の所在の確認等について年3回会議が開催されている。また施設内で起きる緊急事態に、少数の職員でも対応できるよう緊急時対応マニュアルを整備している。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
(評価の理由) ・各種保守・点検等について、施設職員及び委託業者により適切に実施されている。 ・安全・安心を確保するため、環境整備と併せて日常的に事業所内外の整理整頓を心掛けるとともに、危険物の保管場所を限定する等の工夫をしている。消耗品等については「誰が見ても、どこに何がどれだけあるか」が分かるよう、点在していたものを1か所に保管し、同時に在庫管理と発注の効率化を図っている。					

4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A~E,標準:C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→40点以上50点未満,E→50点未満
 A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

・施設内での支援で完結しないよう、また限られた職員数で緊急時を含めて個々の利用者を的確に支援するため、相談支援事業所をはじめとする他機関と緊密に連携をとり、「1人1人の地域移行までとその後」を視野に入れて取り組んでいる。
 ・地域生活体験事業では、親なき後を見据えた体験、支援学校卒業生の親離れ・子離れのきっかけとしての体験等多様な状況下にある利用者を受け入れているほか、時間をかけて地域生活のイメージをつくっていくために繰り返し体験を希望する利用者に対しても柔軟に対応し、今後の生活に関する希望をその都度確認しながら個別の支援に取り組んでいる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

・地域生活体験事業について、様々な立場にある希望者の受け入れを実施し施設としての役割を果たしていることは高く評価できるものの、稼働率が減少していることに関しては原因の分析と課題の把握を行い、他機関と緊密に連携し改善に向けた一層の取組が必要である。